

平成29年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール指定校  
研究開発課題及び研究開発の概要

学校名	研究の概要
<p>北海道 札幌市立 札幌啓北商業高等学校</p> <p>(商業)</p>	<p><b>【研究開発課題】</b> マネジメント能力を身に付けた職業人の育成 ～ 札幌の未来を担う人材の育成 ～</p> <p><b>【研究開発の概要】</b> 本研究では、本校を核として、地元札幌を中心とした企業、外部教育機関、行政、地域社会が有機的に結びつくことで、人的資源、物的資源、財務的資源及び情動的資源を適切に活用する「マネジメント能力を身に付けた職業人の育成」を目標とする教育プログラムの開発を行う。</p> <p>育成する資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ビジネスマナー・コミュニケーション能力</li> <li>・ 協調性・協働性      ・ リーダーシップ</li> <li>・ 企画力・創造力      ・ 顧客満足実現能力</li> <li>・ ビジネス探究能力      ・ 会計情報提供・活用能力</li> <li>・ 情報処理・活用能力</li> </ul> <p>研究開発するプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「観光」分野に関する取組</li> <li>・ 「MICE」分野に関する取組</li> <li>・ 「国際交流」分野に関する取組</li> <li>・ 「地域ビジネス」分野に関する取組</li> <li>・ 「起業家教育」分野に関する取組</li> </ul>
<p>福島県立 小高産業技術高等学校</p> <p>(連携(工業・商業))</p>	<p><b>【研究開発課題】</b> 東日本大震災・原発事故からの地域復興を担う人材育成</p> <p><b>【研究開発の概要】</b> 本研究では、「地域復興を担う人材育成」に取り組み、学科連携によってイノベーション・コースト構想に関連する知識や技術及び技能を身に付け、復興のためのビジョンを持ち、その実現に資する職業人を育てる。</p> <p>育成する力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「自ら考え行動し未来を創造する」 課題を探究し解決しようとする姿勢を持つ</li> <li>・ 「自らを価値ある人間だと考えられる」 自尊心、自己肯定感を持つ</li> <li>・ 「自らの参加により地域を変えるという意識を持つ」 地域社会参画に関する高い意識を持つ</li> </ul> <p>研究開発するプログラム</p> <p>震災の風化防止や原発事故の風評払拭に向けた取組、地域資源を再発見して活用する取組などを通して、地域復興を担う人材を育成する。</p>

	<p>学科連携による学習内容を相互に学習する「Cross Training Program」の開発</p> <p>イノベーション・コースト構想に寄与する人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工業科における新たな産業に対応できる技術・技能を身に付けたエンジニアを育成するプログラムの開発</li> <li>・商業科におけるプロフェッショナルの意識を持ったビジネス人材を育成するプログラムの開発</li> </ul>
<p>東京都立 新宿山吹高等学校 (情報)</p>	<p><b>【研究開発課題】</b> 「Shinjuku Yamabuki 2020 多様な未来に対応する情報技術者の育成」 昼夜間定時制情報科における単位制・無学年制を活かした情報技術者育成プログラム</p> <p><b>【研究開発の概要】</b> 昼夜間定時制情報科における単位制・無学年制を活かした情報技術者育成プログラムの研究である。様々なスキルで入学してくる生徒に対して充実した専門教育を行い、情報のプロフェッショナルを育成することで情報系・工学系分野への進学・就職を増加させ、人材確保につなげたい。また、その教育プログラムの普及に努める。</p> <p>様々なスキルで入学してくる生徒に対し、本教育プログラムにおける授業や様々な取組を積み重ねることで、次の要素を備えた情報のプロフェッショナルを育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)使命と情熱を持った情報のプロフェッショナル</li> <li>(2)確かな技術力を持った情報のプロフェッショナル</li> <li>(3)問題解決能力を持った情報のプロフェッショナル</li> </ul> <p>情報のプロフェッショナルを育成するための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)情報技術者育成のための事業マップの作成</li> <li>(2)事業マップを基にした到達度マップの作成</li> <li>(3)到達度マップを用いた生徒評価</li> <li>(4)入学から卒業までを見通した「履修モデル」の作成</li> <li>(5)生徒のポートフォリオの作成と評価</li> <li>(6)大学や企業、地域と連携した教育活動</li> </ul>
<p>新潟県立 加茂農林高等学校 (農業)</p>	<p><b>【研究開発課題】</b> H S J (Hop Step Jump)カリキュラムによる自立型地域リーダーの育成 ～協働的課題解決能力と自己教育力を兼ね備え、自ら未来を切り拓く人づくり～</p> <p><b>【研究開発の概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年の「総合的な学習の時間」で、課題解決能力、協働性の力、自己教育力のレディネス形成指導を行い、授業や資格取得等の場面で利用させ、技術の習得を図る。</li> <li>・外部連携を インプット型（先端技術講習会、講演会、現場見学会等）、 トレーニング型（インターンシップ、大学生によ</li> </ul>

	<p>る「課題研究」指導等)、アウトプット型(継続型農業体験講座「アグリ・スタディ」の企画・運営、地域イベント参加等)に分類し、バランスよく実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業の専門性を活かした効果的なコース間連携により、生徒の成長につなげる。</li> <li>・中核的生徒(FS)を海外研修、地域活動等で育て、これを他の生徒の成長にもつなげ、農業教育全体のレベルを高める。</li> <li>・地域貢献度の高い「課題研究」テーマを設定し、外部連携を活かして研究する。</li> <li>・事業評価を、農業関連産業への就職者、農業系大学進学者、アグリマイスター顕彰制度認定者数の増加や、プロジェクト活動による地域貢献度などから多面的に評価をする。</li> </ul>
<p>新潟県立 新潟工業高等学校  (工業)</p>	<p><b>【研究開発課題】</b> 工業技術の向上に資する専門的職業人材育成プログラムの開発</p> <p><b>【研究開発の概要】</b> 現在、地域の企業等が求めている人材を「育成すべき人物像」として設定し、人材の育成に向けて、2つの取組を柱とする教育プログラムを開発する。</p> <p>1 育成すべき人材像</p> <p>高い実践力に裏付けられた科学的な根拠に基づいて思考し、困難な課題にも対応することができる判断力・表現力を含めた課題解決能力を身に付けている人材</p> <p>日本が持つ技術力に誇りを持ち、専門分野の知識・技能を習得し、多様な文化や価値観を持つ人々と協働し、生きて働く力を身に付けている人材</p> <p>自己実現に向け、工業技術に対して興味・関心を高め、たくましく突き進む行動力や、生涯に渡って主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力を身に付けている人材</p> <p>2 教育プログラムの柱と取組</p> <p>(1) 地域連携の推進</p> <p>県内企業・大学・研究機関等と連携した講義や技術指導の実施</p> <p>生徒の資質・能力を育成するための教員の指導力向上に向けた取組</p> <p>(2) グローバルな視点を育成</p> <p>外国語を活用して、多様な文化や価値観を持つ人々と協働できる力を育成する。</p>
<p>山梨県立 甲府工業高等学校  (工業)</p>	<p><b>【研究開発課題】</b> 「数値制御ロボット技術」を通じた、地域産業を支え、地方創生を創造する技術者の育成</p> <p><b>【研究開発の概要】</b> 地域活性化、地方創生に資する人材を育成するため、「カリキュラムの研究開発と実践」を行い、また、他校や他地域への「普及モデル」となる方策についても提案する。</p>

	<p>1 育成すべき人材像        本県の基幹産業を担う「先進的技術者」を育成するための教育プログラムを開発する。        「課題解決力・創造力」を育み、専門的で実践的な「技術・技能」を身に付け、自ら考え行動できる「思考力」を兼ね備えた人材        ものづくりを創造する「科学的な根拠に基づいた論理的な思考」、「ひらめきと活用の実践」、「ものづくり倫理」を習得し、新しい価値を創造することができるような人材        さらに、専攻科(平成 32 年度開設)においては、機械系、電気・電子系の横断的、複合的カリキュラムを実施し、「数値制御ロボット」を中心とした産業界を支える「先進的設計技術者」を育成する。</p> <p>2 教育プログラムの柱と取組        本科 3 年間では、        【Thinking】科学的な根拠に基づいた論理的思考力の育成、        【Engineering】高度で実践的な技術力の向上、        【Challenge &amp; Humanity】起業家精神の育成と技術者としての人間教育        により、「課題解決力・創造力」の育成を行うことで、「数値制御ロボット」技術の創造と活用ができる「先進的技術者」につなげる 3 つのプログラムに取り組む。さらに、専攻科の 2 年間では、        【Advancing】課題解決・創造の実践        により、「数値制御ロボット」技術を具現化することができるような応用力を合わせ持つ「先進的設計技術者」の育成につなげる 4 つ目のプログラムに取り組む。</p>
<p>三重県立        相可高等学校        (家庭)</p>	<p>【研究開発課題】        三重から世界へ！        ～「世界で活躍する食のプロフェッショナル」の育成と「グローバル・ブランド」の開発～</p> <p>【研究開発の概要】        本校食物調理科は、近年、海外での活動の場が増えており、生徒は和食の魅力を再確認するとともに、海外への興味、関心を高めている。このような中、「世界で活躍する食のプロフェッショナル」の育成を目指し本研究に取り組む。        具体的な内容は以下のとおりである。</p> <p>1 「食のプロフェッショナル」を育成するための指導方法(「技術力」「経営力」「商品開発力」「コミュニケーション力」の育成)のブラッシュアップ        教育課程、学習プログラムの見直しと再構築        各種コンクールへの挑戦と高度な資格取得への支援        地域での講習会の実施や研修施設での実践等、「地域の食のリーダー」としての活動</p> <p>2 グローバル人材に必要な「グローバル力(語学力、異文化理解力、コミュニケーション力)」の育成</p>

	<p>海外インターンシップの実施による世界に通用する力の育成</p> <p>海外の高校生、SGH研究指定校の生徒との交流を通じたコミュニケーション力の育成</p> <p>国際料理コンクール等、世界の舞台で活躍できる仕組みづくり</p> <p>3 三重の豊かな食材（「メイド・イン・三重」）を使った「グローバル・ブランド（三重の食材を使ったレシピ、商品）」の開発および海外への発信</p> <p>三重の豊かな食材を使ったレシピと商品の開発</p> <p>レシピ・商品を提供する際のサービス（接客等）の向上</p> <p>レシピ・商品の海外発信</p>
<p><b>滋賀県立</b></p> <p><small>はち さん</small> <b>八幡商業高等学校</b></p> <p>(商業)</p>	<p><b>【研究開発課題】</b></p> <p>企業の社会的責任（CSR）を全うするプロフェッショナル人材の育成</p> <p>- 21世紀型近江商人育成プランによる、「商業道德」を身に付けた「三方よし」を実践できるビジネスリーダーの育成を目指して -</p> <p><b>【研究開発の概要】</b></p> <p>本研究は、CSRを全うするプロフェッショナル人材の育成を目指し、三年間で次の資質・能力を育成するため、近江商人探究、起業家育成、グローバル人材育成、地域の担い手育成、エキスパート人材育成に関する学習プログラムの開発に取り組む。</p> <p>(1)高いコンプライアンス意識を持ち企業の社会的責任を全うする力</p> <p>(2)主体的に社会に参画し積極的に社会に貢献する力</p> <p>(3)多様な文化や価値観を理解し、他者の存在を認め他者と協働し、グローバルに活躍できる力</p> <p>(4)地域の伝統・歴史・文化を理解し、その良さを認識し、地域の一員として地域創生に貢献できる力</p> <p>(5)高度な専門知識を活用し、説明責任を果たせる力</p>
<p><b>愛媛県立</b></p> <p><small>うわじま</small> <b>宇和島水産高等学校</b></p> <p>(水産)</p>	<p><b>【研究開発課題】</b></p> <p>地域水産資源を活用した、地方創生人材を育成するプログラムの開発研究</p> <p>～新製品の開発と6次産業化、グローバル化への対応～</p> <p><b>【研究開発の概要】</b></p> <p>コミュニケーション能力、創造力・開発力・実践力の向上およびグローバル基準に対応した専門知識の育成を図り、地域産業の活性化に寄与できる人材育成プログラムの開発を目指す。また、漁村地域発展モデルとして地方創生に寄与する汎用的事例の構築を目指し、以下の実践研究を行う。</p> <p>1 コミュニケーション能力の育成に関する研究</p> <p>産学官連携による愛媛県産魚プロモーション活動</p> <p>国際交流活動</p>

	<p>S S H、S G H、S P H指定3校による連携活動</p> <p>2 創造力・開発力・実践力の育成に関する研究 産学官連携による地域水産物を活用した製品開発研究 S P H先進校との連携学習 各種学会等への参加</p> <p>3 アントレプレナーシップの育成に関する研究 講師招請事業 国内外での販売実習活動</p> <p>4 専門的な知識・技術の育成に関する研究 製品開発を通じた知的財産教育 食品製造実習室の対米輸出対応施設化研究 「食の6次産業化プロデューサー」認定施設研究</p> <p>5 コンピテンシーの定着を客観的に測定する評価手法に関する研究</p> <p>本プログラムで育成された人材が、地域水産資源を活用した新製品開発および6次産業化へ対応するとともに、製造工程の海外輸出規準への達成指導を行うことで、魚価の向上と生産量の増大を通じた地域産業の活性化につながることを狙いとする。</p>
<p>宮崎県立 高鍋農業高等学校 (農業)</p>	<p><b>【研究開発課題】</b> 新たな時代の変化に対応できる次世代農業経営者及び関連産業技術者の育成に関する研究 ～ みやざきの発展を担う起業家スピリットとスキルを備えた人材育成を目指して ～</p> <p><b>【研究開発の概要】</b> 今、地方創生が叫ばれている中、宮崎県の若年層の県外流出が人口減に拍車をかけている。宮崎県農政水産部では、平成28年6月にみやざき新農業創造プラン～新たな時代の変化に対応したみやざき農業の成長産業化を目指して～が改定され、「儲かる農業の実現」に向けた取組が展開されている状況にある。 これを受け、本校では農業経営者及び関連産業技術者のプロフェッショナルを目指し、みやざきの発展を担う起業家を育成することとした。 そこで、本研究では、 模擬株式会社「高農」の設置と経営実践 「高農ブランド」の農畜産物や加工品の品質向上と新商品開発 関連上級学校や地域との連携や寮教育をとおしたキャリア教育の充実 について取り組む。 目指す人材像は以下のとおりである。 農業を核とした「フードビジネス」の振興と活力ある地域の創造に貢献できる人材 高度な農業技術や経営管理能力を有したみやざきの農業をけん引できる人材</p>